



# 落花生

芝山経済センター  
営農指導員 能勢 浩一

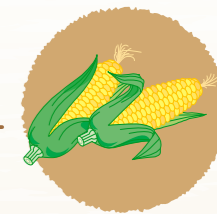
# 農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



# トウモロコシ

やさいの里営農センター  
営農指導員 初芝 浩



● **中耕・培土(石灰施用)**  
開花初期から1〜2回、中耕・培土を

● **マルチ除去**  
収量・品質が低下しないよう、開花期(ほ場の50%の株に1輪でも花が咲き始めた頃)後、7〜10日頃にマルチを除去し、雨水やかん水した水が浸透するようにします。

● **畑の準備(播種)**  
落花生は連作障害が出やすい作物なので、他の作物と輪作してください。基肥には落花生専用(5-15-20)を10坪当たり60キ、苦土石灰を10坪当たり60〜80キ施用します。土壌診断を行い、石灰が不足していた場合は、土壌pHが6.0〜6.5になるよう矯正してください。

● **千葉県の特産品・落花生**  
千葉県は、落花生の生産量全国1位を誇っていますが、平成25年には12,700ト、この10年間で生産量は約3割減少しています。一方で、販売単価はここ数年堅調に推移しており、今後、作付の拡大が望まれている作物です。

● **栽培のポイント(表2参照)**

● **乾燥**  
掘り取り後は、5〜7日間地干しします。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆い、雨や湿気を防ぎます。十分に乾燥させた後、脱穀・調整してください。

● **試し掘り**  
収穫が遅れると、落ち莢が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして収穫適期を逃さないようにしましょう。「ナカテユタカ」は開花期後80日、「千葉半立」は開花期後95日が収穫目安です。

● **病害虫防除**  
そうか病や褐斑病に注意し、トップジンM水和剤(1500〜2000倍、収穫7日前まで、4回以内)等で防除してください。

● **かん水**  
7月下旬〜8月中旬(結莢〜莢肥大期)に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空莢が発生します。畑が乾いているときは、1回当たり30〜40リかん水してください。

● **アブラムシ類**  
イネ科雑草から飛来し、5〜6月に多くなります。雑草防除を心掛け、アブラムシの住む場所をなくしましょう。初発時はアグロスリン乳剤、アドマイヤーフロアブルなどで防除します。

● **紋枯病(写真1参照)**  
高温多湿で発生します。地際部から発生し、病斑は周縁部褐色で葉鞘を伝わって上がっていきます。病気が進むと菌核ができ、それが土壌に落ちて次年度の感染源となります。薬剤はリゾレックス水和剤の登録があります。

● **病害虫防除(表1参照)**  
トンネル栽培では絹糸抽出(ほ場全体の50%以上)から23〜25日が目安です。マルチ栽培では19〜21日です(品種や温度に影響されるため、日数はあくまでも目安)。

● **生育後半の管理**  
花粉の飛散後、1〜3日で絹糸が抽出し始め、受粉完了まで7〜10日かかります。その時期の水分の過不足や日照不足は着粒を少なくします。

● **収穫の目安**  
収穫の目安

写真1 紋枯病が発生したトウモロコシ



写真2 アワノメイガによる被害



● **オオタバコガ**  
トウモロコシでは若い穂が好まれ、穂先が特に加害されます。大きくなると薬剤が効きにくいいため、発生初期に残効性のあるプリンスフロアブルを散布します。収穫近くに発生が確認された場合は、アフーム乳剤を使用します。

ます。収穫時期になったら、モスピラン顆粒水溶剤で防除します。  
● **アワノメイガ(写真2参照)**  
防除は①雄穂開花初期、②雄穂開花最盛期(約10日後)、③雌穂絹糸出穂最盛期がポイントです。  
①、②の時期はパダン粒剤4またはプリンスフロアブルを散布します。雄穂開花終了後はプレバソフロアブル5を散布します。③の時期は収穫前日数を考慮して薬剤散布しましょう。

2月の分析経過について

合計3点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	ほうれん草……………1点
	ニラ……………1点 (インショップ)
	ヤマトイモ……………1点 (インショップ)
※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。	
土壌診断点数	合計96点

表2 落花生の栽培暦

	5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
千葉半立	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ナカテユタカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
主な作業	基肥 播種		マルチ除去		中耕・培土		乾燥・調整					

表1 トウモロコシの病害虫防除例(トンネルマルチ栽培)

時期	作業	発生病害虫	農薬名	使用基準	特徴	希釈倍数	備考
3月	マルチ 展張 播種						
4月	トンネル除去		モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	残・浸・速	2000倍	☆アブラムシ防除(出穂前)
5月	出穂期	アブラムシ類	アグロスリン乳剤	収穫7日前まで(または パダン粒剤4)	接・残(浸)	1000〜2000倍(6kg/10a)	☆アワノメイガ+アブラムシ防除(粒剤は株の上から均一に散布)
			プレバソフロアブル5	収穫前日まで	残・速	2000倍	☆アワノメイガ防除(雄穂開花終了後)
			プリンスフロアブル	収穫14日前まで	残・速・食・接	2000倍	☆アワノメイガ+オオタバコガ防除
6月	収穫	アワノメイガ	リゾレックス水和剤	収穫14日前まで		1500倍	☆紋枯病防除
			トレボン乳剤	収穫7日前まで	接・残	1000倍	☆アワノメイガ防除
			アフーム乳剤	収穫3日前まで	食	1000倍	☆オオタバコガ防除
			モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	残・浸・速	2000倍	☆アブラムシ防除

※特徴欄の略字 残…残効性 浸…浸透移行性 速…速効性 食…食毒 接…接触毒